



暮らしに役立つ統計調査

統計局統計調査部消費統計課
企画指導第一係長

高橋 大

TAKAHASHI Dai

平成14年 4月 総務省採用
統計局統計調査部消費統計課企画指導第二係
平成17年 4月 自治行政局選挙部政治資金課収支公開室
平成19年 4月 統計局統計調査部経済基本構造統計課調整係
平成21年 10月 統計局統計調査部経済基本構造統計課調整係長
平成22年 1月 統計局統計調査部経済基本構造統計課企画係長
平成23年 4月 官民競争入札等監理委員会事務局監理専門職
内閣府本府公共サービス改革推進室主査
平成25年 4月 大臣官房秘書課主査
平成27年 5月 現職

■調査結果は、国民の共有財産

知っている統計調査と尋ねれば、私が担当した「家計調査」が一番にあげる人はなかなかいません。家計調査は、毎月約9,000世帯を対象としており、他の統計調査と比べて少ない規模ですが、毎月公表される結果への注目度は非常に高いものとなっています。私は、調査実施にあたり、調査方法の検討や調査票の設計など企画及び指導の仕事を行ってきました。家計調査の歴史は古く、昭和21年から毎月継続して実施しており、世帯の方に『家計簿』をお配りし、毎日の収入・支出を細かく記入していただいています。調査結果は、国民の共有財産として国内総生産（GDP）の推計や消費者物価指数、景気動向指数など、日本経済の動向を把握する重要な指標の作成にも用いられるほか、地方公共団体やマスコミなど実に多くの方々にご利用されています。新聞、テレビ等で「出典：家計調査」の文字を見ると、うれしく思うとともに、非常に重要な調査に携わっていることを改めて認識します。

■働くことへの不安と期待

我が国の経済実態を把握するための情報として、昨今、消費統計に強い関心が寄せられており、総務省では新たな取組みとして、ビッグデータ等を活用し、消費動向の全体構造を捉える新たな速報性のある包括的な消費指標として「消費動向指数（CTI）」の開発を進めています。消費指標は、世間の注目度も高く、総務省の果たす役割は、非常に重要なものとなっています。このように書く専門的知識が必要であると思われがちですが、統計といっても業務内容は多岐にわたり、1人で黙々とこなすのではなく、どちらかと言うと全員と一緒に仕事をする方が多いように感じます。当初は分からないことが多いと思いますが、先輩職員が丁寧に教えてくれるので安心してください。また、総務省には、統計以外にも国民生活に密着している仕事が多くあり、私自身、統計以外の仕事も経験しましたが、そこで得た知識、新たな人と交流できたことは掛け替えのない財産となっています。

Question & Answer

Q. 仕事をする上で心がけていることは？

A. スケジュール感です。私が担当していた家計調査では、都道府県、調査員、調査世帯へと調査事務が流れていきます。都道府県への説明や調査用品の作成が間に合わないと調査実施に影響を与えてしまいます。一方で1つの調査を実施するに当たり、様々な資料の作成や手続きを踏まなければならないため、我々実施者側の負担も大きなものとなります。そのため、事務負担を分散し、効率的に進めて行くことを心がけています。

Q. 一緒に働くならどんな部下？

A. 正しいかどうかは別として、自分なりの考えをしっかりと持っている人と仕事がしたいですね。長年仕事をしていると自分の中に固定観念を持ってしまつため、人の意見に耳を傾けることで新たな発見があります。そのため、新人職員には、どんどん自分の考えを述べてほしいですね。様々な意見を集約して作り上げたものには、大きな達成感が生まれます。



Private Life

数年前に柴犬を飼いました。最近トリーミングに行った際に体重を計ったら「ぽっちゃり気味」と言われました。私も近年の健康診断で肥満気味と言われました・・・なので、休日は犬と一緒にちょっと長めの散歩をし、ダイエットに励んでいます。まだ成果は見られませんが、これからも続けていこうと思います。

